

信長が見た戦国京都

奈良大学 文学部 史学科 教授 河内 将芳

永禄2年(1559)、初めて上洛を果たした織田信長が目にしたのは、平安京とは全く異なる京都の姿でした。応仁・文明の乱や政争を経た町人たちが、自衛のために惣構を設けて自治を行う、城塞と化した異貌の都で信長は何を目にして、どのように京都と交錯していったのでしょうか。また京都の人びとは、尾張から来た信長をどのように見ていたのでしょうか。本能寺の変で亡くなる天正10年(1582)までに信長が目にした戦国時代の京都について、信長の目と京都の人びとの目を通してお話します。



● 開催日時 2月19日(日) 午後2:00~3:30

オンライン受講について

- 定員：30人 ● 場所：好きな場所で
- 受講料：無料(資料の配布はありません)
- 形式：Zoom

※オンライン受講のご注意

- インターネット回線・接続機器は、ご自身でご用意ください。
- 視聴に係る通信費は受講者負担となります。
- 当センターの通信環境は事前に確認いたしますが、受講者側の通信環境等によっては、ご覧いただけない場合があります。
- 視聴手続きは、お申込み時にご案内します。